

# 小さくても無視できない虫の脳

日時 2018年7月21日(土) 14:00~

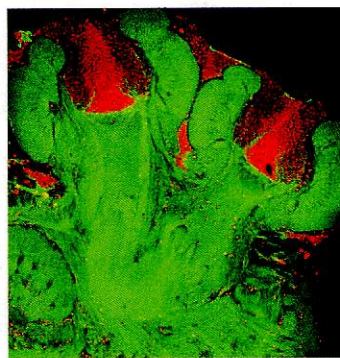
場所 JT生命誌研究館1階カンファレンスルーム

入場無料・予約不要

講師 宇賀神 篤研究員 (チョウが食草を見分けるしくみを探るラボ)

昆虫は地球上の様々な環境に適応し、繁栄してきました。彼らも私たちと同様に、好みの異性の居場所を認識したり、食べ物の在り処や危険な場所を学習したりと、頭(もちろん“head”ではなく“brain”の意味です)を使って懸命に生きています。また、餌の場所を覚えて巣の仲間にダンスで伝えたり(ミツバチ)、何千キロも渡りをしたり(オオカバマダラ)とユニークな行動も知られています。

今回のレクチャーでは、昆虫の行動を司る脳の働きに焦点を当てます。特に、昆虫の中でもとりわけ発達した脳を持つ社会性ハチ類の例を中心に、これまでの私自身の研究の紹介を交えながら話を進めたいと思います。当日は数種類の昆虫の脳(アルコール漬けたもの)も用意します。「ムシの脳なんて大した働きしてなさそう」と思った方も、是非一度ご覧いただければ幸いです。



(左上) ミツバチの頭部と脳の位置関係 (右上) 脳高次中枢「キノコ体」

(左下) ニホンミツバチの対スズメバチ熱殺蜂球 (右下) 雌雄モザイクのマルハナバチ

メールマガジン 毎月2回、生命誌研究館の催しやホームページの更新情報、刊行物・季刊「生命誌」の情報などをメールにてお届けします。ご希望の方は下記のURLからお申し込みください。



<http://www.brh.co.jp/mailmag/>

お問い合わせ先: JT生命誌研究館 TEL:072-681-9796(平日9時~16時)